

認知症コラム

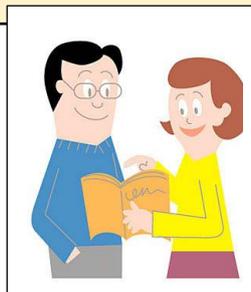


若年性認知症支援コーディネーター 古屋富士子氏 Vol.4

久里浜医療センターで若年性認知症支援コーディネーターとして、相談業務に従事している古屋さんに、お話を伺いました。

【相談としては就職支援の仕事が多いのでしょうか。】 つづき

大企業の場合、障害者に適した仕事を用意できる場合があります。従業員 1,000 人のうちの 1 人なので、ざっくりばらんに言うと、勤務先に来て机の前に座って 8 時間過ごせるのであればいいですよと言われることもあります。障害者雇用の制度もあるので、とりあえず来てもらえれば問題ないと言われたケースです。でも、認知症の方は、比較的早期に通勤が困難になってしまうことも多いです。一例ですが、妻が横須賀中央駅から都内の勤務先まで付き添っていたケースもあります。



【勤務先で座っているだけでよいと言われてもそれはそれで困りますね。】

企業によってはいろいろな理由があるのかもしれませんが。上記のケースは、前頭側頭型認知症(ピック病)でした。病識はなく、自分の言いたいことは言うけれど、人からの指示は入らないといった方で、会社も家族も大変だったと思います。診断後 1 年以上就労継続ができました。

他にも、郵便局の職員で復帰した人や倉庫の荷物整理として就労継続したケース等があります。二度手間ではあるが在庫確認、荷出し業務があるから大丈夫です。また最近オンラインになり注文が増えたので、障害者の方が担当できる仕事は増えていまして会社からは嬉しい言葉もいただいています。大企業にはこのような事例が多いです。問題は中小規模の企業です。従業員が 5 人~10 人位の場合は、同僚に迷惑がかけられないと退職後に、相談の電話があります。

診断後に新たな職場で働いている方もいます。若年性認知症の本人がグループホームで働き始めたのは横須賀から始まりました。グループホームの管理者が研修会で話をしてくれたことがきっかけで、徐々に介護や福祉の現場に受け入れてもらえることが始まりました。

まだまだ、障害者施設での若年性認知症者の受け入れの開拓ができていないと感じます。移動支援をしてくれるボランティアがいると、受け入れ先が広がるかもしれないと考えています。